

## ヒュドラ退治：IMFの汚職対策

[アリスティア・トムソン](#)

2017年5月18日



汚職に伴う公的資金のコストは多額に上り、様々な面で経済成長を阻害（写真：dareknie/iStock by Getty Images）

私利私欲のために公職を濫用する**汚職**はいくつもの頭を持つヒュドラのような怪物に例えることができます。汚職は多くの国に蔓延していますが、表沙汰になるのはそのごく一部で、実際罪に問われるものはさらに僅かです。しかし汚職がもたらす累積的負担はあまりに大きく、ある説によれば賄賂だけでも年間**1兆ドル**に上り、汚職全体ではさらに多額であると推定されます。汚職の正確なコストについては**議論**の余地はあるかもしれませんが、汚職が深刻な問題であることには議論の余地はありません。

汚職の犠牲となるのは圧倒的に社会的弱者です。汚職は財政に負担をかけ、様々な面で経済成長を阻害します。**IMFのエコノミスト**を含めた様々な専門家は、乳児の高い死亡率ならびに教育・医療への少ない公共投資額と汚職との関係を調査し、そのいずれの結果も貧困層が最も影響を受けるというものでした。つまり、汚職は貧富の差を広げているのです。汚職・腐敗の防止を推進するトランスペアレンシー・インターナショナルは、汚職と貧富の差の相互作用がドミノ効果となってポピュリストの台頭を招いたと**結論づけています**。

IMFの春季会合で「グローバル議員ネットワーク」に対し、IMFのショーン・ヘイガン法務局長は「汚職がシステムックに行われると、政府が投資を促進させる政策が採りにくくなる」と**述べています**。汚職は金融機関・金融システムを弱体化させ、海外からの投資を遠ざけ、国際的な資本流入を歪めることとなります。経済成長と金融の安定に対するこうした脅威こ

そ、IMF が加盟国と協力して、汚職による損失とその対策に関する昨年の[スタッフによる論考](#)で述べた通り、各国の公的機関ならびに法的枠組みの改善に取り組んでいる理由です。

IMF はいくつかの重要な面で[汚職防止](#)に取り組んでいます。

- IMF の法務・金融専門家は、重要と判断した場合、年次第 4 条協議に基づく「ヘルスチェック」と融資プログラムにおいて、汚職防止に焦点を当てた助言を行います。特に汚職問題が深刻な国に対しては、汚職によって得た資金のマネーロンダリングを防ぐことに的を絞ったプログラムを用いて、公務員に技術支援やトレーニングを提供しています。こうしたマネーロンダリング防止対策はまた、世界経済の約 85 パーセントを占める G20 の国・地域が 5 年毎に実行を約束している[金融セクター評価](#)プログラムにもとりいれられています。
- IMF の財政・金融の専門家は各国が財政管理、税の徴収、公的支出の透明性を改善し、議員と国民が政府の説明責任を問うことができるように支援しています。IMF では、[財政透明性評価](#) (FTE)、[税制診断ツール](#) (TADAT)、[公共投資運営評価](#) (PIMA) などの評価ツールを開発するとともに、世界銀行やその他の機関と共同で、[公的支出及び財政に関する説明責任](#) (PEFA) の枠組みや[債務管理パフォーマンス評価](#) (DeMPA) を開発しました。
- IMF はその専門知識や各国での現地体験、グローバルなリーチを活かして、[採取産業透明性イニシアティブ](#)や [G20 腐敗対策作業部会](#) などの国際的イニシアティブに貢献しています。
- IMF の統計スペシャリストは、加盟国に対し[世界標準](#)の統計制度の確立などを通して国の経済指標の質やデータの公表体制の改善を支援しており、それはガバナンスと透明性の向上に寄与しています。
- IMF の専門家は、加盟国の中央銀行に対してもガバナンス向上策や内部統制、透明性の改善策を支援しています。例えば、アルバニアと[バングラデシュ](#)では、中銀からの横領が繰り返されないよう、コントロールを強化しました。IMF が融資を行う際は必ず、IMF の金融スペシャリストが「[セーフガード評価](#)」を行って、融資先の中銀が資金を安全かつ説明責任ある方法で管理していることを確認しています。

こうした努力は実りつつあります。例えば、[ケニア](#)やインドネシア、ウクライナでは、IMF の支援を受けて汚職防止法の枠組みと法執行能力が[強化されました](#)。2014 年には、マリで予算外の大統領用専用機が新規購入されたことを受け、監査の結果、融資実行を延期し、他の問題のある契約をキャンセルするとともに、予算および購入手続きを厳格化しました。2016 年には[モザンビーク](#)で、10 億ドルを超える対外借入が開示されていなかったことが発覚し、監査と透明性に改善が見られるまで融資の実行を延期しました。グローバルには、資産や口座の実質保有者を隠匿するために企業や信託が利用されている問題に対応するため、IMF は[金融活動作業部会](#)が開発した標準を IMF の通常マネーロンダリング防止対策に取り入れ、腐敗資金の特定・追跡を容易にしました。

こうした進展はありますが、IMF 春季会合における圧倒的な[加盟国からのメッセージ](#)は「もっと前進せよ！」というものでした。韓国やブラジルでの最近の例にも見られるように、汚職は政府のトップレベルまで蔓延しており、技術革新が急速に進む時代にあって、汚職を行い、その行為や資金を隠匿する方法はどんどん巧妙になっています。

膨大な汚職コスト、そして、不正な資金が ISIS やアルカイダなどテロ組織の資金調達源となっている事実は、汚職防止対策が喫緊に必要とされていることを浮き彫りにするものです。ムニューチン米財務長官は「IMF は汚職対策を率先して行わねばならない」と言っています。

汚職は立ち止まってくれません。そして私たちも立ち止まってはいません。IMF は現在、昨年、加盟国からの要請を受けて、いかに汚職やその他のガバナンス問題に対処するか検討中です。例えば、トランスペアレンシー・インターナショナルの各国エキスパートの力を借りて IMF の財政透明性評価を強化するなど、他機関ともっと緊密に協力する方法を模索中です。

手をこまねいては、1つの首を切ってもそこから2つの首が生えてくるギリシャ神話のヒュドラのように、汚職がなくなることはありません。加盟国メンバーやその他のパートナーと協力し合って、私たちは今後も汚職防止に向けて邁進してまいります。世界の経済成長と各国の経済ならびにその国民は汚職から大きな影響を受けており、汚職対策は最優先事項の一つとして取り組むべき課題です。

\*\*\*\*\*



**アリストア・トムソン**：IMF コミュニケーション局メディア・リレーションズ副部長。IMF に 2009 年に入職。それ以前は 10 年以上にわたり、ロイター通信の海外特派員としてベルギー、コートジボワール、南アフリカ、セネガルに駐在し、経済から貿易、スポーツ、政治、紛争まであらゆるニュースを担当、国際関係への造詣を深めた。英国出身。デモンフォート大学国際関係修士号取得。